

食卓追憶談

藤崎君と本會の事業

本會理事兼研究所長
文學博士

加藤 玄智

故藤崎三郎助君と私との交際は可なり長いものである。曾て我々が日本の精神文明を研究して聊か思想界の善導に資すると共に、他方に於ては之を海外にも紹介せんことを期して本會を起したのは明治四十五年の事であつたが、藤崎君は其の抑もの創立時代から深く我々の志に共鳴され、初め會全体の必要な支出を自分一人で引受けても可いと云はれた程の熱心さで、有力な援助と奨勵とを與へられた、幸に本會は今日までに、星野文學士や長井文學博士等の献身時努力によつて、毎回の紀要英文古語拾遺其他の出版物を公刊し、研究所としてもその努力に對して可なり大なる仕事を完成し得たが、これといふのも藤崎君の如き熱心なる會員が、全く算盤勘定の外に立つて内部で働いて呉れた結果である、畢竟本會の今日あるを得たのは、藤崎君が率先して、まだ海のものとも山のものとも分らない本會の爲に力を添

へ、捨石となつて働かれたことに多大の原動力があるのである。

世間では随分實業家などで諸種の學會などの後援をしてゐる者を見るが、中には其の會の爲に盡力するといふよりは寧ろ會を利用して、自家商業上の便宜を圖らんがためであるとも聞いてゐる、然るに藤崎君に至つては、そんな考は微塵もないのであつて、只々學界の爲に、會の發達を庶幾して、十五年の長い間を熱心に働き續けられたことは、我々の深く感謝する所である、私は此の一事を以ても、藤崎君の人格を想見する事が出来ると思ふ。

本會近き將來の豫定事業としては、池邊眞榛翁の古語拾遺新注を公刊すると、神道について西洋人がまだ手をつけてゐない其の發達せる方面を研究した結果を英文でまとめ發表すること等で、後者の方は今現に私が本會研究所の一の仕事として日夜努力してゐる。我々は此の後共に益々本會の事業を盛にして、それを以て故人存生中本會に對する熱心に酬い、その成果を以て、明治聖帝の懿徳を海の内外に知悉せしむることが出来れば、我々日本の學者として、日本の精神文明研究にたづさはつてをるもの本分の一端を盡すことになると思ふ、而てそは又實に故人の眞精神の存する所であつたと思へる。

以上簡單に申上げた本會今日迄の業績は、則ち故藤崎三郎助君の本會に對する熱心と努力と其貢獻とであると御承知願ひ度いのである。